

## 山口県瀬戸内での新規立地 上関原発埋め立ての阻止を続ける田名埠頭現地にて

ハル

シーカヤックで祝島の人たちと海を守る行動に参加したのは、作業が始まった9月10日より最初の3日間と、島民が一旦引き上げた9月22日からの2日間。この一連のことは連日ニュースになったり、メールやネット等で全国に届けられたのでご存知の方も多いと思う。

現地に行って改めて感じた事は、「祝島は海を売っちゃらん！」という28年にわたる島民たちの生活に根ざした強さが今までこの海を美しいまま残してくれているという事。しかしそんな祝島の人たちも確実に年を重ねておられるという、当たり前的事にも4年ぶりに阻止行動に参加して感じた事でもある。そのため、もうこれ以上島の人たちだけにこの上関原発の反対と行動を甘える訳にはいかない、僕ら次の世代と山口県内はもちろん県外に住む多くの人がこの海を守る運動を引き継いでいかなければならない、と。そんな折、島から出た人たちがお墓参りや家族に会いに帰って来るお彼岸の9月21日を一旦最後に、祝島は海上阻止ではなく、別のやり方で行動をつなげるとして、翌22日以降現地から引き上げる事になった。その時、それまで僕らシーカヤックはあくまで祝島の支援として一緒に海にいる、というスタンスだったのが、この日を境にシーカヤックだけでも海を守ろう、ということになった。それはあたかも現地は祝島だけがこの原発に反対している、という偏った報道が続いていたことに対して、そうではない、島の人々が中心ではあるけれど、県内外にもたくさんこの原発と埋め立てには反対している、という現実を知らせたいという想いが日増しに高まっていたことも背景にはあった。

この日、中電は祝島がいないとわかると、前日までの低姿勢なポーズをかなぐり捨て、一気にその本性を見せてきた。ビデオカメラで執拗に撮影したり、違法、賠償という言葉による恫喝や、それでも非暴力、不服従で臨むこちらの反応がないと見るや、警戒船2隻を突進させて工事を強行してきた。しかしこの動向が祝島に伝わり、急遽島の船がやって来て事無きを得た。しかしこの行為が大きくニュースや動画となって全国に発信され、図らずも反対しているのは祝島だけではない、という事が全国に発信されることにもなった。そして以前に増して多くの人が現地に出向き、またフラッグに想いを託し現地を飾り、またその声を直接、山口県庁や上関町、中電に届けてくれて大きな力となっていった。

もう一つ良い結果としてこのカヤック隊だけでの行動が再び祝島の人たちの心を動かし、この日よりどちらが主体というものではなく、一緒にこれからも行動を続けていこう、という新しい形が出来てきた。

今までの様に漁船が30〜40隻毎日出てくるのはやはり限度があるだろう。しかし交代で船数隻とカヤック10艇という事なら、漁師さんたちは交代で休みが取れたり漁にも出れるだろう。それで何か緊急事態が起れば島から数隻飛んで来るし、そうでなかったらこれくらいの体制でけっこう力になるというのも判ってきた。

以降その形で永らく阻止を続けてきたが、今月7日、大型台風が来た時に、中電は「今日は作業しない」と言い、祝島の船が帰ったその隙にだまし討ちのように別の場所から違うブイを運んで設置し、埋め立て工事着工を宣言した。その記者会見でも、埋め立て認可を出した県の条件である「住民の理解を得る」ということを「引き続き努力する」と言っていたが、なんとその2日後に海上阻止を続ける祝島島民とカヤック隊代表の計39名に対して埋め立て工事の妨害禁止仮処分命令で訴えていたことが先頃発覚した。

「島の農業や漁業ではいずれ食べていけない」「原発と共存共栄」等、暴言をさんざん海の上言っていたが、これらが問題となるや紙に書いた文面をただ読み上げるだけのお願いに終始し、これを「理解を得る努力」と言い換え、それで「理解が得られなかった」から仕方なしに「他のブイを運んだ」そうで、作業の遅れが予想されるため、やむを得ず「訴えた」と言う始末。また県も誰一人現地に来ようともせず、国も61万筆以上の署名を出されても関与しようとしなない。これが推進側の実態だ。しかし祝島島民もカヤック隊も全てのブイさえ持ち出されなければ実際の埋め立ては出来ない、と今後もひるむことなく海を守る行動を続ける覚悟です。引き続きたくさんの方の署名、応援、ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。(今週もカヤック積んで行ってきまーす！ハル)